

【平成17年度専修学校を活用した職業意識の啓発推進事業】

事業名	小中学生など若年者に対する自然環境に関わる職業体験講座		
学校法人名	伊東学園		
学校名	大阪テクノ・ホルティ園芸専門学校		
代表者	理事長 伊東政信	担当者・連絡先	山田正彦 0721-24-5147
<p><事業の概要></p> <p>以下の各教育機関に赴き、若年者に対し花や緑に関する体験型授業で説明や作業を行い、参加者にアンケート調査を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 平成17年11月17日 太子町立山田小学校 4年生 63名 平成17年11月30日 大阪府立農芸高校 1年生 36名 平成17年12月2日 富田林市立児童館 10名 平成17年12月9日 富田林市立児童館 10名 平成17年12月16日 奈良市立平城東中学校 2年生 14名 平成18年2月1日 神奈川県立中央農業高校 1年生 69名 平成18年2月3日 富田林市立藤陽中学校 1年生 17名 平成18年2月6日 埼玉県立熊谷農業高校 1年生 77名 平成18年2月14日 大阪府立農芸高校 2年生 37名 <p><成果></p> <p>年齢を問わず、体験型授業の説明や作業を通して、児童、生徒が花や緑に対する関心を高めたことが明らかになった。</p> <p>また、作業を楽しんでいる生活で植物に関心を持つ率が高かった。説明の理解度の高い生徒ほど、関心が高くなった。これらのことから、説明にエンターテイメント的要素を持たせることも有効な手法であることが示唆された。</p> <p>高校生では、具体的な職種についての理解が深まり、就職の方向性と創造させる手段として非常に有効であることが明らかとなった。一方で、その中で体験型授業前から当分野への関心をなくしてしまった生徒の存在が明らかとなった。仕事の厳しさを知ること、就職意欲が萎えたことが要因のひとつとなっており、まずは、現実の厳しさを先に伝えるよりも関心を抱いてもらうようにすることが就職意識を高める上で必要であることが明らかとなった。</p> <p>中学生では、学校によっては花や緑に対して興味を持っている生徒が半数以下であったが、これらの生徒も体験後は、全員が花や緑に興味を持ったという結果が得られた。このように、体験型授業では、これまで関心のなかった若年者に興味を持たせる契機として非常に有効であることが証明された。また、興味の度合いが高くなると、今後体験型授業でやってみたいことも数多くなっていた。このことから、まず職業分野に関心を持たせる体験の重要性が示された。</p> <p>小学生では、花や緑を嫌ったり、その減少を願ったりする児童が皆無であることがわかった。自分で育てていない児童でも、これから植物を育ててみたいと思っており花や緑について知りたいと思うようになったことがわかった。関心の高まりが直接的に行動に移行する可能性が示唆された。これらのことから、体験型授業が花や緑に関する作業に関心を高める有効な手段になることが明らかとなった。</p>			